

## 外来のご案内

### 外来診療担当医

H26.1.6~

|       | 月                 | 火                 | 水              | 木                                    | 金   |
|-------|-------------------|-------------------|----------------|--------------------------------------|---|
| 初診    | 吉本(隆)<br>足立<br>多田 | 松崎<br>富永          | 藁和<br>萬羽<br>中田 | 日野<br>福井                             | 長澤<br>宮下  |
| 再診    | 長澤<br>富永<br>萬羽    | 樋掛<br>日野<br>吉本(隆) | 長澤<br>松崎<br>日野 | 吉本(隆)<br>富永<br>萬羽                    | 松崎<br>吉本(美) (AM)<br>足立<br>吉田(第2・4週PM)<br>篠山(AM) |
| 児童精神科 | 石川<br>吉本(美)       |                   | 石川             | 石川<br>藁和・吉本(美)<br>(AM初診)<br>藁和(PM再診) | 石川<br>藁和(AM再診)<br>吉本(美)(PM再診)                   |

【診療科】…………… 精神科 ※変更となる場合があります。  
 【診療日】…………… 月～金曜日  
 【休診日】…………… 土・日・祝日、開院記念日、年末年始(12月29日～1月3日)  
 但し、救急の場合はこの限りではありません。  
 【アルコール・薬物依存症外来】…… アルコール・薬物依存症を対象としており、断酒・断薬治療などを希望する方が対象です。  
 ※アルコール依存症外来では外来ミーティングを行っています。詳しくは当センターのホームページをご覧ください。  
 【児童精神科外来】…………… 中学生以下のこころの問題が対象です。

## 医療機関などからの紹介・初診問い合わせは地域連携室でお受けします。

☎0265-83-3181(代表) 【受付時間】平日午前8時30分から午後5時まで  
 FAX.0265-83-6160(地域連携室直通)

○当センターへの受診は完全予約制です。初診の予約については、患者さまから初診専用電話におかけいただきますようお願いいたします。  
 【患者さま初診専用】 ☎0265-83-4156 受付時間…平日午前10時から午後3時まで

## お知らせ

### 職員募集 医師・看護師を募集しています!

■ 医師… 随時募集  
 ■ 看護師 (平成25年度 採用試験日程)  
 第5回 3月8日(土) 会場:長野市  
 ◎試験内容/適性検査及び個別面接 ◎募集期間/2月27日まで

連絡先  0120-173-314 採用専用  
 フリーダイヤル  
 又は ☎026-235-7152(病院機構本部職員課) ✉saiyou@pref-nagano-hosp.jp

医学生・看護学生等の病院見学のご希望は、病院(事務部総務課長:藤木)へ直接ご連絡ください。お問い合わせ先 ☎0265-83-3181(代)

 地域の明日を医療で支える  
 地方独立行政法人 長野県立病院機構

## 長野県立こころの医療センター駒ヶ根

〒399-4101 長野県駒ヶ根市下平2901  
 TEL 0265-83-3181(代表) FAX 0265-83-4158  
 ✉komagane@pref-nagano-hosp.jp  
 http://www.pref-nagano-hosp.jp/komahosp/homepage

こころ 駒ヶ根 検索



Mental Wellness Center-Komagane



# 駒通信

第9号

2014.1.16  
発行

内容▶▶▶ \*年頭のごあいさつ \*中部建築賞受賞 \*平成25年9月以降の主な行事  
 \*平成25年度第7回長野県立病院機構公開講座 \*信州メディカルネット

## 年頭のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。



院長 樋掛 忠彦

全面改築をして、すでに3年が経過しました。国の精神保健福祉の入院医療中心から地域生活中心への流れに沿い、病床数を大幅に削減して、救急医療や依存症、児童精神科、医療観察法という専門医療の充実を図ってまいりました。また、外来医療や精神科リハビリテーションの体制整備をしました。結果として外来患者数が大幅に増加して、駒ヶ根モールに患者さんが集う姿がいつも見られています。

さて、昨年4月には医療福祉建築賞、そして12月には中部建築賞を受賞しました。アルプスの山々と調和した外観、明るい玄関ホールによる精神病院のイメージからの脱皮、個室中心の病棟などが高く評価されました。すでに病院が地域の中にある感じと受けとめられました。全国の先駆けとなった皮袋の中身をどうしたら良いかとあらためて責任を感じました。

現在、長野県立病院機構では平成27年度からの5ヶ年計画を検討中です。これまで「ひらかれた病院づくり」「つくり続ける病院」「人を育てる病院」「持続可能な病院」を信条として来ましたが、現場から浮かびあがる注目点は次の4つです。

- ①入院期間はどこまで短縮するか
- ②訪問看護とデイケアの果たす役割の増大
- ③老年期精神疾患に対して精神科は何ができるのか
- ④専門職員は足りるのか

いずれも大きな問題ですが、ひらかれた議論の中で答えを見つけてゆきます。

ドロッカーは非営利組織のミッション(使命)を考える際の三本柱として、「ニーズを知る」、「われわれの強みは何か」(卓越性)、「何を大事に思うか」(コミットメント)をあげています。「うまくいかなくなるきっかけは、成功しているときである。」を肝に銘じて、新しい病院に応じた柔軟な組織づくりに今後とも取り組んでまいります。

## 第45回 中部建築賞を受賞しました

改築された当センターが建築物として優れているとして、平成25年12月11日に第45回中部建築賞(入賞)を病院管理者である当センター、設計者である(株)共同建築設計事務所、施工者である(株)ヤマウラ・(株)岡谷組が受賞しました。

◆受賞内容……第45回中部建築賞 一般部門 入賞 (一般部門応募総数53件 入賞6施設 入選2施設)

### ◆中部建築賞

この賞は、中部圏域(愛知・三重・岐阜・静岡・福井・石川・富山・長野・滋賀の9県)の地域社会の発展に寄与し、かつ「持続可能な社会」を目指すという時代の要請に対応し、地域と環境に根ざした優れた建築作品に対して、その功績を讃え、中部建築賞協議会(中部圏の各県建築士会等により構成)が授与するもので、中部圏内の建築物が対象。

### ◆受賞理由(一部抜粋)

人のデリケートな深層部分のケアを行う病院「長野県立こころの医療センター駒ヶ根」は、今までの閉鎖的で隔離された精神病院とは大きく異なっている。

駒ヶ根モールと名付けられた受付や診察室が面するメインの通りは、吹抜けから光が降り注ぐ大空間となっており、カフェコーナーがあるなど街の賑わいが演出されている。

外来患者と救急患者との動線を別けるが、医療側では同時に対応できる配置となっており、また病棟には光庭を設けて休憩できるベンチを配置するなど、駒ヶ根の自然が楽しめるプランになっている。

建築の質の高さだけでなく、地域に根ざし住民に必要とされているこころの医療センター駒ヶ根は、中部建築賞としてふさわしい施設である。



## 平成25年9月以降の主な行事

### 公開講座を開催しました

9月14日(土)午後1時30分から清泉女学院大学・短期大学学長吉川武彦先生をお迎えして当センター体育館で公開講座を開催しました。

「ここを健やかに保ちたいーここ病んでも地域で暮らすー」と題して、身近な事例を挙げながら分かりやすく、こころの仕組みを専門知識がない方にも理解できるよう丁寧に話していただきました。

地域住民や関係機関の皆様など約160名の方々にご来場いただき、熱心に聴講していただくことができました。



### 防災訓練を実施しました



10月28日(月)午後2時から防災訓練を実施しました。今回は「日中に震度6弱の地震が発生し、B1病棟で火災が発生した」という想定のもと、患者さまにもご協力いただき、デイケア患者、入院患者の避難を行いました。さらに、備蓄食糧を活用して、炊き出し訓練も行い、参加いただいた患者さまに「五目ごはん(アルファ米)」「おむすび(白米をガスで炊いたもの)」「みそ汁」を振る舞いました。災害時における炊き出しの課題も見つかり、充実した訓練を行うことができました。

また、災害時に地域の方々から協力を得られるよう、病院が立地する駒ヶ根市下平地区の役員の方や、隣接する西駒郷の職員の方々に防災訓練を視察いただきました。

今後、地域との災害時の協力関係の構築に努めていきます。



### 長野県自治体病院研究会を開催しました

11月2日(土)午前10時30分から病院のBCP(事業継続計画)をテーマとする長野県自治体病院研究会を当センター体育館において開催し、県内自治体病院関係者約130名の方に参加いただきました。

午前の基調講演は法政大学大学院講師・特定非営利活動法人事業継続推進機構理事の鍵屋一先生をお迎えし、「大地震の切迫性と病院のBCP」と題して、病院BCPに何が必要かをわかりやすく、ユーモアを交えながら話していただきました。

病院BCPの前提は、自助「自らや家族が大きな被災をしないこと」、共助「地域の安全が守られること」であり、まずは身近な防災・減災から取り組む重要性を学ぶことができました。



午後は「病院におけるBCPの必要性と今後の取り組み」と題したパネルディスカッションに飯田市立病院 長沼副院長、伊那中央病院 畑谷救急科部長、長野県立木曾病院 飯嶋副院長をパネリストとしてお迎えし、各病院の取り組みを報告いただきました。コーディネーターの鍵屋先生や、会場から様々な質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

## 信州メディカルネットに参加しました

当センターでは、安全で高品質な医療を提供するため、県内の複数の医療機関と診療情報を共有するネットワーク「信州メディカルネット」に参加し、平成25年12月16日からシステムの運用を開始しました。

患者さまの同意のもと、当センターの情報がネットワークを通じて、他の同ネット参加医療機関でも参照可能になります。

◆**診療情報提供施設**…自院のカルテ等診療情報をネットワーク経由で連携医療機関へ提供します。また、他の提供医療機関と相互提供できます。

◆**診療情報参照施設**…診療情報提供医療機関の提供情報を参照できます。

### 診療情報参照施設



保護されたネットワークを使用



診療情報提供病院群  
(相互提供が可能)

